令和元年(2019 年)11 月１日

保護者の皆様

豊能町立吉川小学校

校長　　松田　寿春

「平成３１年度全国学力・学習状況調査」結果および今後の取組みについて

秋も深まってまいりました。保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育推進にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成３１年４月に本校６年生に実施いたしました「平成 31年度全国学力・学習状況調査」の概況について、分析結果をまとめましたので、お知らせいたします。なお調査問題は文部科学省 HP 等でご覧いただけます。

１．概要

今回の結果を通して、全国平均・大阪府平均との比較や過去五年間との比較だけに目を向けず、児童の課題は何か、どんな力をつけたらよいかを考え、児童の抱える課題に正対した取り組みを進めていきたいと思います。

今年度の学力調査は、これまでの国語Ａ・算数Ａ（主として知識）、国語Ｂ・算数Ｂ（主として活用）が、国語・算数となりました。調査に要する時間は軽減され児童の負担は減ったものの、教科の平均正答率に対する１問のウエイトは大きく、少ない問題数で児童の学習状況調査が現われてしまう結果につながる懸念はあります。

また理科調査は今年度は行わず、国語・算数・学習状況調査の３調査でした。

全体的に本校の結果は、国語・算数ともに、平均正答率は、全国平均・大阪府平均を下回りました。教科の各領域別にみても、算数では、大阪府・全国平均と同程度はあるものの、下回る領域の方が多く、特に国語では、全領域で、大阪府・全国平均をかなり下回る結果となりました。

これまでもこの調査で本校児童は、国語に課題があり、算数は一定の理解をしているという結果であり、今年度もその特徴は出ていると思います。しかし、今回のこの結果を真摯に受け止め、国語・算数の基礎的な学力・知識・活用についての力をつけていくために努めていきたいと思います。また、国語・算数にとどまらず、他教科についても言語的な力を中心に、確かな学力の向上に向けて、本校の教育活動の再検討に努めたいと考えます。教科領域や児童質問項目結果についての課題などについて、以下で説明をさせていただきます。

２．学力面について

①．国語の調査結果から

学習指導要領の領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のどの領域でも、全国平均正答率を下回りました。特に課題があったのが、**①「話すこと・聞くこと」②「書くこと」③「伝統的な言語と国語の特質に関する事項」**です。また、評価の観点も、全観点で全国平均を下回りました。特に課題があったのが、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」です。問題形式では「選択式・短答式」に課題がみられました。

【国語の主な特徴と課題のあった設問】

＊目的に応じて相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある。

設問1-2と1-3　調べたことを報告する文章を書く（公衆電話）「書くこと」

・報告文「公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」書き方の工夫として適切なものを選択する問題。

・報告文「調査の結果をもとに考えたこと」に、「公衆電話はどのような時に必要か、どのような使い方や特ちょうがあるのか」をまとめて書く問題。

＊漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことに、かなり課題がある。

設問1-4　調べたことを報告する文章を書く（公衆電話）「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

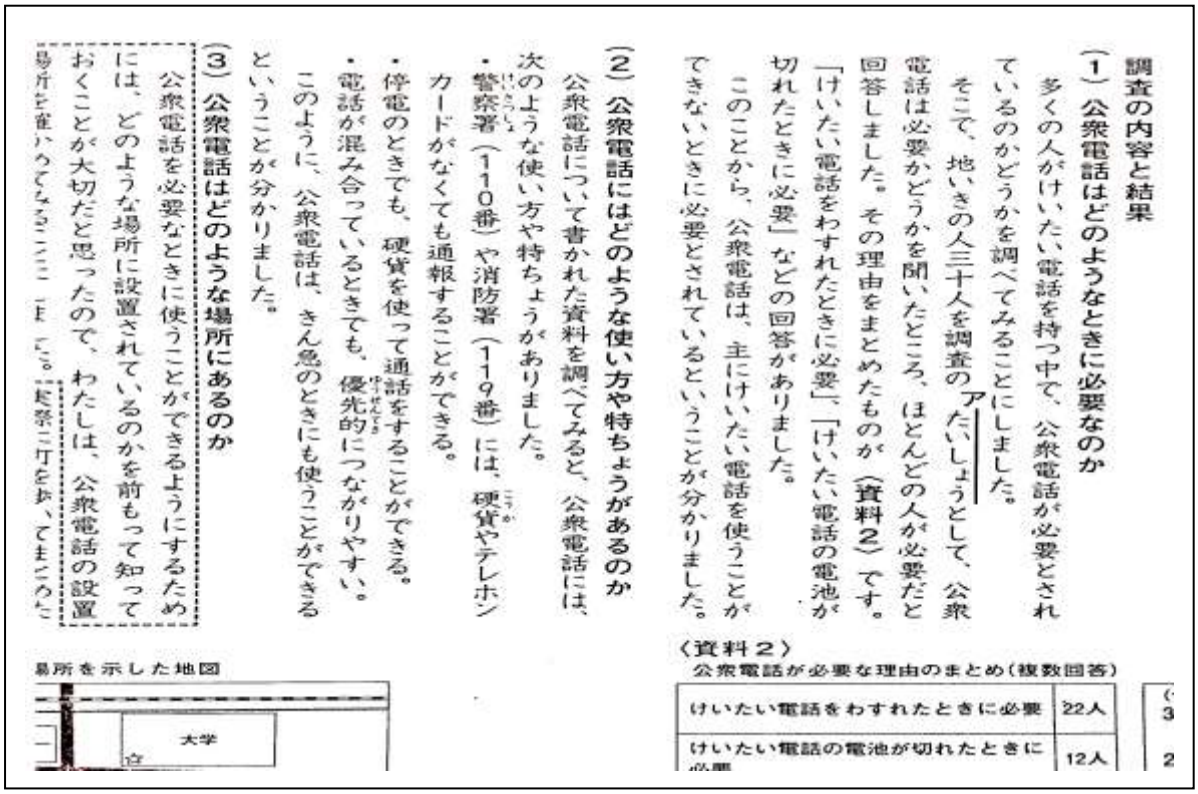
・地域の人三十人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要か・・（後略）」の下線部の正しい漢字を書く問題。

・（前略）・・・、公衆電話についてのかんしんをもってもらいたい」の下線部の正しい漢字を書く問題。

＊文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに、かなり課題がある。

設問1-4-2　報告文で１つの文を接続語を使って２文に書き直す「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

・読み手に伝わりやすくするための報告する文章を、２つの文に分けて書き直す問題。



調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のアたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが（資料２）です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や特ちょうがありました。

・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができる。

・停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができる。

・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を実際に行きを、てまとめた。

〈資料２〉

公衆電話が必要な理由のまとめ（複数回答）

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人

設置場所を示した地図

大学

【国語に関する児童質問紙との関連】

・「国語の勉強は好きですか」が全国平均よりかなり低く、学力調査（国語）に課題があったことと関連がある。

⇒以下の質問項目のように、国語の大切さはわかっていると言える。楽しい国語の授業づくりを、教職員は研鑽していく必要がある。

・「国語の勉強は大切だと思いますか」や「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いま

すか」の割合は全国平均より高く、国語の必要性はよくわかっていると言える。

⇒国語の必要性を理解している児童ゆえに、より関心・意欲をもって国語の授業に臨めるように、教材研究と授業研究に努めなければならないと考える。

・国語の授業では、「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」や「自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」や「文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な話を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」も全国平均より低い。

⇒学力調査から、漢字を書くなど基本的な言語力を育てると共に、相手に伝えるような話し方・文の組み立て方を身につけると共に、目的に応じて自分の考えを話したり聞いたりする力の育成を目指していきたい。

【児童質問紙の国語に関する調査からみえる課題】

＊国語の授業は勿論のこと、全教科や学校生活において、言語を通して自分の考えを語り、相手の言いたいことを聞きとり、話し合って問題を解決する教育の根本を見直していかなければならないと考える。

＊家庭学習（家庭での勉強）のあり方や読書のあり方など、今までの学習や生活のあり方を考えていかなければならないと考える。

②. 算数の調査結果から

学習指導要領の領域の「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のどの領域でも、全国平均正答率を下回りました。特に課題があったのが、①「数と計算」②「量と測定」です。また、評価の観点も、全観点で全国平均を下回りました。特に課題があったのが、「数量や図形についての技能」です。問題形式では「短答式・記述式」に課題がみられました。

【算数の主な特徴と課題のあった設問】

◆基本的な問題は理解しているが、発展的な問題は課題のあった設問　図形、数量関係

＊台形については理解しているが、図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することに課題がある。

設問 1-1 と 1-2　図形の構成と筋道を立てた考察（台形）「図形」

・長方形を切ってできる形から、台形を２つ選ぶ問題は、よくできていた。

・示された２つの合同な台形からつくることができる形をすべて選ぶ問題に課題がある。

＊棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるが、それらを関連付けて、１人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することに課題がある。

設問 2-1 と 2-3 と 2-4　資料の特徴や傾向を読み取り判断すること（水の使用量）「数量関係」

・10 年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ問題は、よくできていた。

・1 人当たりの水の使用量の増減について判断し、判断した理由を、グラフから分かることを基に、言葉や数を使って書く問題に課題がある。

・洗顔と歯磨きで使う水の量を求めるため、６＋０．５×２を計算する問題に課題がある。

＊示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。

設問 3-2　計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）「数と計算」

・示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を「わられる数」「わる数」「商」の３つの言葉を使って書く問題に課題がある。

＊示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することに課題がある。

設問 4-2　乗法の計算ができ、それを適切に用いる（計算の工夫）「数と計算」

・何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く問題に課題がある。

＊図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できることに課題がある。

設問 1-3　数や演算の表わす内容に着目する（遊園地での待ち時間）「量と測定」

・減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く問題。

＊場面の状況から、単位当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断することに課題がある。

設問 4-3　日常生活の事象を数理的に捉え判断すること（遊園地での待ち時間）「量と測定」

・時間の求め方と答えを言葉や式を使って書き、判断する問題に課題がある。

【算数に関する児童質問紙との関連】

・「算数の勉強は好きですか」や「算数の勉強は大切だと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の割合は全国平均より高く、算数には国語より関心・意欲が高いといえる。

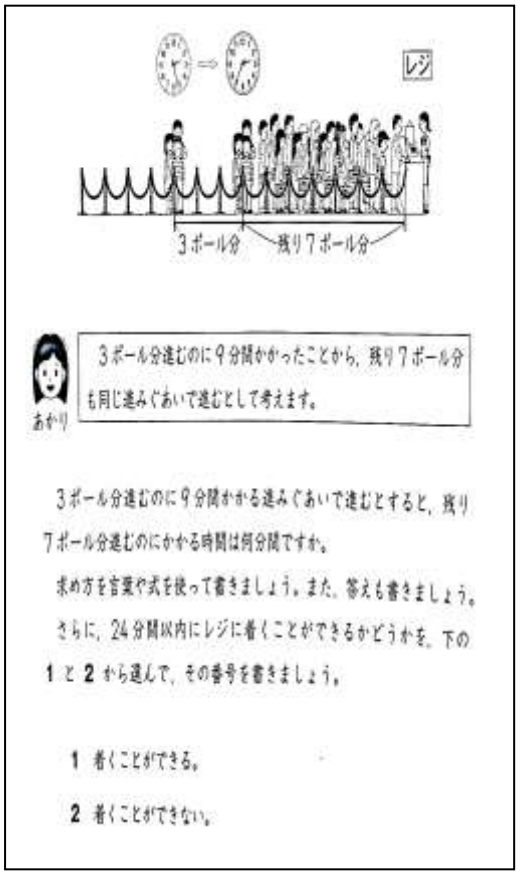
【児童質問紙の算数に関する調査からみえる課題】

＊算数が好きや算数が必要と児童が考えているので、関心・意欲を高めていけるような、興味関心が喚起される授業の工夫・教材の研究に努めたいと考える。

＊数と計算という基礎的な領域で課題が見られたことは、算数の基礎基本の徹底を再度検討していく必要がある。

＊算数は答えがあっていればOKという考えから脱却し、自ら公式を導き出したり、公式の意味を考えたり、数学的思考を高める学習のあり方や授業改善していく必要がある。

「算数の勉強は好きですか」や「算数の勉強は大切だと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」は全国平均より高く、算数は国語よりさらに関心・意欲が高いといえる。



③. 学力面についての調査結果を受けて

学力調査で問われている学力観の中で、「いろいろな情報から、分析し、問題を見つけたり課題を結びつけたりする力」は、今後を生きる児童にとって大切な力といえます。また「相手の意図や目的を考えながら読んだり聞いたりする力」「相手に伝わるように話す・書く力」も欠くことのできない力といえます。「たくさんの文字に向き合い、読み切り、読み取り、分析、判断、統合していく力」の育成の大切さを実感しています。

学力調査の問題を解いた、正答・誤答したというだけにとどまらず、この調査問題の主旨を日々の学習活動に取り入れたり、取り組んだりすることが、本校の教育活動でも必要性があることと考えます。

国語の「読む力」については、毎年、本校児童としての課題が見られます。「全ての教育活動において、言語活動を重点においた授業づくりを進める」ことに一層取り組んでいきたいと考えます。合わせて、読書は、人間が情報を得たり思考したり書いたり表現したりする基礎を養う大切な活動です。児童が読書活動を深めていけるように、指導のあり方について研究していきたいと思います。

「話す・聞く力」については、調査対象の６年生に限らず、本校全児童の課題です。人の話を聞く、相手に伝わるように話す、目的や意図を考えて話したり聞いたりするなどは、国語の授業は勿論、全教科や教育活動全体で取り組んでいく必要があります。「言わずともわかる」から「できるだけわかるように説明する」「相手の言いたいことを考えながら話を聞く」ことに取り組んでいきたいと思います。

算数については、国語より関心意欲も高く、それが調査結果にも表れています。しかし、基礎基本の定着や活用問題も、複雑で複合的な問題を解く力など、今後一層取り組み、児童の数学的思考力を育てていく必要があると考えます。

【領域ごとの課題に向けた取組み】

◆国語（話す、聞く、書く、読む、言語的理解）

・話す、聞くについては、相手に伝わるように話す、相手の話の意図や目的を考えて聞く授業に取り組みます。日々の教育活動の中で、授業や学級活動での話し合いや意見発表、学校行事・生活の中で、自分の言葉で自分の思いを、単語だけでなく文章として話したり聞いたりする力を育てていきたいと思います。

・書くについては、どの教科でもワンコメントメモなど、短い文章で端的に自分の考えを書くことを取り入れます。日記指導、綴り方、作文などにも今後も継続的に取り組み、特に「何を書いてもいい」「間違っていい」「自分の思いや願いを書いてもいい」という意識のもと、自己を開き自身の言葉で表現する力を育てていきます。

・読むについては、音読、黙読なども様々な読み方の工夫、説明文・物語文、詩など教材の研究を深めます。何より、「朝の読書タイム」に全校で再取組みをします。毎週水曜日の朝読書タイムは、教員も児童も読書します。読んでもらうのではなく、椅子に座り机に向かい、自分で自分の本に向き合います。

・言語的理解については、授業の中でミニプリントを行うなど、基礎基本の習熟に取り組みます。漢字習得（学習の仕方）、文法の学習について教材研究を深めます。（漢字を写す、ドリルをこなすだけに終わっていないだろうかの点検、漢字の意味や発展性についての理解など）。言語領域の学習が、児童の興味関心を引く魅力的な授業づくりに努めます。

◆算数（数と計算、量と測定、図形、数量関係）

・数と計算については、授業の中でミニプリントを行うなど、基礎基本・既習事項の習熟に取り組みます。

・量と測定については、机上学習にとどまらず、実際に体験的に学び、量として実感して量の概念を身に付けたり、日常生活で使ってみたりする体験を通して習得化するような授業の組み立てに努めます。

・図形については、図形概念を言葉で説明したり、学んだことを実際の生活で使ったり、体験的に習得できるよう

な授業づくりに努めます。

・数量関係については、立式の意味を考えたり、数量関係について話として説明したりお話づくりをしたり、意味を理解し、言葉で説明する力を育てていきたいと思います。

【生きる力としての学力】

落ち着いた学習・学級集団・教職員との信頼関係の中で、児童は学習に真面目に取り組んでいますが、学習の基礎である国語・算数に課題が見られたことは、本校の教育として基礎基本の充実を再検討していかなければならないと考えます。

言語活動や算数的な思考が、日常の活動に生かされるような取り組みや、机上の国語・算数の学習にとどまらず、体験的な活動を通して学び、そのことを通して自分の考えをまとめたり、相手に伝えたり、説明の趣旨を理解してよく聞いたり、文を書いたり発表したりする教科横断的な学習が必要と考えます。伝達的、教授的な授業から、児童が主体的に学ぶ授業づくりへの改善を目指していく必要があります。

「自然豊かな吉川」と言われ、山に囲まれ、川が近くを流れ、田園が目の前にある恵まれた地域を生かした教育、本校が大切にしてきた「地域に学ぶ」「地域と協働した教育」「吉川学・とよの学」に取り組み、子どもたちに自然体験や体験的な学びを保障していきたいと考えています。

３．生活面について

①　学校生活・自分自身のことについて

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

○学校生活について、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の項目で全国平均を上回っている。

○「自分にはよいところがあると思うか」「将来の夢や目標をもっているか」の項目で、全国平均を上回っている。

○「先生は、あなたのいいところを認めてくれていると思うか」「人の役にたつ人間になりたいと思うか」では、全員（100%）が肯定的評価をしている。

○「学校のきまりを守っているか」は全国平均を上回わり、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」は全員が肯定的評価だった。

【学校生活や自分自身のことについての主な特徴と今後の取組み】

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の質問に全員が肯定的回答をしている点から、教職員との信頼関係が保たれ、また安心して学ぶことのできる学級・学習集団がつくられていることが推察されます。

「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけない」の項目への肯定的評価は高く、約 9 割の人が「学校のきまりを守っている」と答えています。学校生活の規範に対する意識は高いといえます。「廊下を走らない」「挨拶をする」「集合時間を守る」「授業中に私語を控える」などについて、行動としてはまだまだの面があるけれども、意識をもって取り組んでいることがうかがえます。

人間関係のトラブルやつまづきに、本校教職員が児童の思いに耳を傾け、複数教職員で対応し、できるだけ早め

の対応に努めています。今後も、人権教育や道徳教育の授業をはじめ本校の教育活動全般で児童一人ひとりの思いを聴き取り、児童も教職員も誰もが安心できる居場所のある学級、学校づくりを進めていきたいと考えます。

② 家庭での学習意欲や生活について

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」は全国平均を上回っている。

●「学校の授業時間以外に普段 1 日当たりどれくらいの時間、読書をするか」「昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり借りたりするため、図書館に行くか」は、全国平均より高いものの、どちらも肯定的評価は30%ほどで、全体的に低いと言える。

○「朝食を毎日食べていますか」は、全児童（100%）が「食べている」「どちらかといえば食べている」と答え、全国平均を上回っている。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻におきているか」「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」は、全国平均と同程度である。

【家庭学習意欲や生活についての主な特徴と今後の取組み】

児童の家庭での学習意欲は高く、まじめに家庭学習に取り組んでいるといえます。また「読書が好き」と答える児童は多いが、図書館に行ってまで本を借りたり読んだりすることは少ないと言えます。児童自身が、家で読書することを子どものうちに身に付けることは、とても大切なことだと考えます。家庭で読書する大切さを伝え、読書の習慣づくりを家庭と連携して取り組んでいきたいと思います。

児童が朝食を毎日食べていること、「同じ時刻に寝る、起きる」などがかなり高い調査結果であり、ご家庭のしっかりとした基本的な生活習慣の安定を感じます。基本的な生活習慣の定着は、児童の学校での生活や心身の安定のために大切なことです。今後とも、ご家庭でのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」の肯定的回答が多く、お忙しい中も保護者がお子さんと話す時間を大切にされていることがわかります。

③ 地域との関わり等について

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

○「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはあるか」は、全国平均を上回っている。

【地域についての主な特徴と今後の取組み】

地域の方たちのご支援ご協力のもと、様々な活動を行ったり、地域の行事や地域活動に参加したり、地域の方に勉強やスポーツを教えてもらったりしながら、本校の児童は育っています。また、登下校の毎日の安全見守りの中で児童は育ち、児童自身が地域の方に感謝すると共に「将来は自分も、吉小サポーターのようになりたい」と思っている児童もいます。今後も、地域の方のご支援を賜りながら、本校としてできる地域との連携や地域の方などの授業支援を得て、授業や活動を深めていきたいと思います。

③. 生活面についての調査結果を受けて

本校は学級の児童数が少なくて個別課題・個別対応を丁寧に行う良い面がありますが、反面、学習・学級集団の中で育つという面が薄れている傾向があります。個別で教師に小さな声で質問し答えてもらうことに終始せず、自分の言葉で自分の考えを学級全体に伝わるように話したり、相手の話をしっかり聞いたりする必要があります。また個別対応で気持ちを聞いてもらうだけにとどまらず、話の目的や意図を考えて話したり、相手の言おうとする意志を理解して聞いたり、話し合いによって共感したり自己理解を高めたり、学級・学習集団の中で発言したり共感したり協働したりする集団力の育成が大切です。また、少人数の中だけの関わりだと、児童の人間関係を築く力の低さやまわりの目を気にしたりする面が見られます。人間関係における自尊感情・自己肯定感を高め、自己選択し、自分で自分の発言や行動に責任を持ち、積極的に行動していく力の育成も必要と考えます。

４．最後に（今後の取組み）

本年度から、学年団で児童を見守り育てていく学校体制をよりすすめています。１・２年、３・４年、５・６年での学習・学級集団の中で学び育つことを目指して、複数の担任と担任団の教職員で２学年の児童を見て、児童もどちらの担任にも相談できる体制をとってきています。また、できるだけ２学年合同授業、合同学級集団づくり（可能な授業は合同で行う）に取り組んできています。

教職員の児童対応は、指示事項・指導事項に終始せず、援助的コミュニケーションとして、①児童のリソース（資源、持ち味）を肯定的に受け止める、②受容・共感的に思いを聴く、③ポジティブメッセージを伝えることに努めています。また、児童観察の視点の変換を大切にして、〇〇ができない⇒児童が〇〇をしないという事実を受け止めること、〇〇を自己選択したと受け止めることに努めています。

児童対応は、担任一人ではなく、複数の教職員で対応し、全教職員で全校児童についての情報交流・共通理解、指導・支援方針の共通確認に努めています。その中で、どのような授業をすることがよいのか、どのような集団づくりをすることがよいのかを協議し、「教員の授業力育成と集団づくり」について全教職員が授業を公開し研鑽を積み重ねて、教員一人ひとりの授業力向上に取り組んでいきます。

調査結果から見えてきた児童の課題に正対した取組みを進めると共に、教職員一同、保護者・地域の皆さんと一緒に子どもたちの健やかな成長を見守り、支えていきたいと考えています。今後とも学校教育活動にご支援、ご協力よろしくお願いいたします。